

聖徒の道

第三卷
第四号
一九五九年
四月
一月一日
発行



末日聖徒イエス・キリスト教会

完成への道

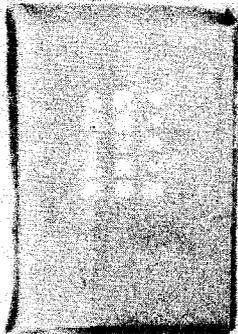


当教会の教える「人格の完成」とは何か。

本書はこの質問に対して「それは神の如くなる事なり」との重要な答を提供する。

又、当教会の教義、特に系図研究に志す人の必読の書

¥200



一つにまとまつた末日の聖典。

新旧約聖書と共に、イエス・キリストの福音の研究を志す人々の必携の書

¥ 1,100

全初等協会教師の所有せねばならぬテキスト、便宜上、各教課が四季により分類されている

¥100

霊的成長

教会の標準聖典に基礎を置き豊富な譬話、経験談、其他活動を含んでいる本書は子供の日曜学校教師に秀れた教材を提供する

¥150



御国のこの福音は
 もろもろの国人に
 証をなさんため
 全世界に
 宣伝えられん
 而して後
 終は至るべし

マタイ伝二四章十四節

聖徒の道

目

次

一九五九年四月号

【予言者のことば】

善しい生活——幸福な生活

……………デビッド・O・マックレイ…………… 2

【伝道部長メッセージ】

「わがために生命を失うものはこれを得べし」

……………ポール・C・ランドラス…………… 6

我れここに在り、われを遣したまえ (下)

……………スティーリング・ワシントン…………… 8

禾図のページ

東京中央支那報告

ソルトレーク

ニシキト兄弟先祖一千名探求

神祇献堂式の祈禱

マイヤー長老の通信

足で家系調べ四十年

母愛に於けるモルモン

私の哀涼

……………福原俊明…………… 11

「モルモン」という名に依つて

……………浅田恒則…………… 12

信仰と証詞

真理とは

……………松本山田節子…………… 13

御霊の導

……………札幌藤田秀光…………… 14

今月の主な出来事

「表紙の説明」ソルト・レーク神殿

…………… 16

ス欄

…………… 17

モルモン・パライサイソワ

…………… 18

阿倍野支部集会所移転

…………… 19

地方部大会予告

…………… 20

モルモン経物語 (十八)

…………… 21

伝道本部だより

…………… 22

「支部紹介」東京中央支部の巻

…………… 23

詩

…………… 24

支部所在地・編集者

…………… 25

己の宗教を研究せよ

…………… 26

…………… 27

…………… 28

…………… 29

…………… 30

…………… 31

…………… 32

…………… 33

…………… 34

…………… 35

義しい生活—幸福な生活

デビト・O・マッケイ大管長

生活はこの世に生れた時から始まつたのではない。それは永遠の中に始まつたのである。生活は死んだ時に終るのではなくて永久につづくものである。そして、如何にわれわれは地上に於けるこの仮の世を過すべきかが唯一つの問題である。これはすべての男も女も答えなければならぬ大きな問題である。そして、一人のこらず自分自身で決めなければならぬ。「汝らいつまで二つの思想の間に迷うか」、「汝らいつまで二つの意見の間に迷うか」とエライジャは民にたずねてから、世界中の若者の一人のこらずにとつて決定的の思想であるべきものを示している。

「エホバもし神ならばこれに従え、されどバアルもし神ならばこれに従え」と。聖書の句は「民は一言も彼に答えざりき」という言葉で終つてゐる。

(列王紀略上 十八章二十二節)

それは大事件であつた。もしも君が今旅行をしていてカルメル山へ行くならば、今日そこに住んでいる人々は、エライジャがバアルの祭司たちに会つた場所を指し示そうと努めるにちがいない。当時、古代イスラエルの民は迷つてゐた。大ていの民は決心がつかなかつた。多くの民は、今日その名が不義不正の象徴になつてゐる女王イゼベルに従つてゐた。しかし、その偉大な人エライジャが「エホバもし神ならばこれに従え、されどバアルもし神ならばこれに従え」、しかし決定せよ、汝の心の傾向がどうあるか決定せよ、とイスラエルの民に挑戦した様を心に描いてみよ。

若いうちに行くべき道を決定する者は、この世界中で僅かしかない。大多数はエライジャの時代にイスラエルの民がそうであつたように一人の指導者に従つてゐるが、もしもその指導者が間違つた指導者であるならば彼らは間違つた道を行

予言者のことば



く。もしもその指導者がたまたま善い指導者であるならば、彼らも善くなるにちがいない。間違つた指導者または間違つた理想に従うことが本当に悲劇であるのは、それによつてわれわれが完全に義しい生活の息の根を止めるまたは窒息させてしまうことがあるからである。

義しい生活とは自己にうち勝つことの自覚であり、また神との交わりを自覚することである。義しい生活は人を推し進めて困難を征服させ一層の力を獲得させる。自己の才能が展開し、また真理が自己の靈を発展させているのを感じるならば、それは人生に於ける最も崇高な経験である。

受けるときよりも与えるときに、一層多く義しい生活が表現される。最も大きな盡の祝福は他人を助けることから生ずる。もしも君がみじめになりたいたならば兄弟に対して憎しみの念を抱け、またもしも君が憎みたいならば、ただ君の兄弟を何か傷つけるようなことをせよ。しかしながら、もしも君が幸福になりたいならば、親切な奉仕をして誰かほかの人を幸福にせよ。

一層高い生活を実現するための指導原理は数多くないし、また複雑でもない。本当にその指導原理は数も少くまた簡単であるから、一人のこらずの人がどのような生活の面にもあてはめることができる。それは次の四つ、すなわち

- (一) 義しい生活の価値の眞実性を認めること。
 - (二) 社会上の集団に対する責任感。
 - (三) 克己の力とその結果生ずる自制。
 - (四) 人生の究極の目的は個人の完成であるという自覚
- である。結局、義しい生活は本当の人生である。義しい生活は人間を森の野獣と區別するところのものである。義しい生活は、人間を物質的のもの以上に高め

るけれども、なお人間は人生が彼に与えることができ、然も彼の幸福に必要であるかまたは彼の進歩に貢献をするすべての自然の助けを受ける。この世にあつても、彼はこの世に属しない。(ヨハネ八章二十三節参照)

思想は行動の種子

君が今行っている生活の種類、君の気質、君自身の性格などは、君の行いがほんの外部的の表われにすぎない君の思想によって常に決定される。思想は行動の種子である。思想はわれわれの人格を造る。織物師がその織機のたて糸と横糸とから花や模様を織り出すようにはっきりと確かに、前後に動く思想の織機の主要部分のあらゆる運動がわれわれの性格をつくっている、否われわれの容ぼうのかたちさえも変えている。人の求める軽いことでも、人格の形成と一生の方向にそれ相応の關係を持つている。心の中にある主要な思想や、胸の中にある有力な願いはこれよりもっと大きな關係を有っている。今自分を省りみてみたまえ、そうすれば君はその有力な思想に従って行くにつれて今から十年にして君の運命がどうなるか決定することができるのである。

人間が地上に存在することは、彼がその努力とその心とその靈とを彼の肉体的の本能と情欲とを喜ばせ且つ満足させるに役立つものに集中させるか、または彼が正しい生活をするいろいろな性質を得ることを一生の目的とするかに就いての試験に過ぎない。

自然の第一法則は生存

われわれは物質世界に住んでいる。自然の第一法則は生存することであるから人類はその法則に従っている。適者生存は自然の法則であるから、われわれは聖典の中でさえ自己や自己の愛する者たちに必要な品を給しない者は異教徒よりも悪いと教えられている。われわれはその法則が芝生の中で働いていて、草の葉の一つ一つが隣りの葉が死ぬのにかまわず生きのころうと努力していることがわかる。本当に、隣りの草が死ぬことはそれに最も近い葉の生きのころうを意味するかも知れない。これと同じことがあらゆる自然界に起っている、すなわち駒鳥は自分と自分の子孫が生きのころうのために虫をあさっているが、その駒鳥自身は鷹の餌食となり、その鷹は狩人の的となって打ち落されるかも知れない。それが自然の法則である。それが此世の物質的の生活である。われわれがそれを越えて高い所へ昇るまで、われわれは単なる動物である。そして、君は人類の大部分がその法則に従っていることに気がつくにちがいない。それであるから、われわれは現在紛争を持って居り、大てい人間がまだその動物の面に止まっているので、敵対の要素という暗雲がわれわれを取り巻いている。

その理想がこの物質界以上に高く昇ることなく、その目を一層高い生活があるという約束と可能性に向って閉ぢる者は、此世に於けるわれわれの目的は生れて

生きて呼吸して自分の後につづく者たちのために普通のやり方で用意をし、それから死ぬ、すなわち「かいこよりも微塵も高くない愚かな生存の循環」を認めているにすぎないことを忘れないようにしよう。

わが教会の青年たちよ。正しい生活という高いところへ届こうと努力をしている時に非常に大切な段階がある。それは君たちが自分の配偶者を選ぶという段階である。注意深くあれ。君と等しい高い理想を持った者を選ぶ。誰でもかまわず選んではならない、また友をもつために正しい生活の理想をすててはならない。君が選ぶ一生の配偶者は、大部分君の成功不成功を定めるにちがいない。君が期待している幸福な家庭の基は君の十代に君が据えるのである。君の将来の家庭生活の幸福の種子は、君が学生である十代に蒔かれる。君の未来の配偶者と交際に必要である性格の強さは、将来の家庭生活に於ける君の強さと幸福とを決定するにちがいない。そして、若い女性たちよ、あなたたちの淑徳を重んぜず、あなたたちを貞淑の典型から連れ出そうとする男子は夫としてあなたたちを幸福にしな

いにちがいない。

配偶者を選ぶに当って次に大切なのは教育である。この世に於ける最も偉大な教育は正しい生活の教育である。それは霊の進歩発展であって、人格を進歩発展させるものはあらゆる小中学校、高等学校、大学の目標でなくてはならない。

エマーソンは「人格は知性よりも高い：偉大な霊は考えるにはもちろん生活するにふさわしいにちがいない」と正しい言葉を吐いた。私は人格教育と正しい生活の訓練を信ずる。宗教は人格をつくるのに大切であるから、人生に於ける成功は大部分自己の努力にかよっている。

「汝らいつまで二つのものの間にまようや、エホバもし神ならばこれに従え、されどバアルもし神ならばこれに従え」(列王紀略上 十八章二十一節)

この聖句の中には世の人々に向い、また特に今十字路に居る若人たちに向って告げる言葉があるが、それらの若人たちに向ってわれわれは「汝らいつまで二つの思想の間にまようや、主もし神ならばこれに従え、されどバアルもし神ならばこれに従え」と言うことができよう。

末日聖徒の教える正しい生活と道徳は根本的の諸原則に固く根ざしている。この諸原則からは世の人々が逃れようとしても逃れることのできないのであって、その中の最も根本的な原則と言えは具体的の神を信ずること(末日聖徒にとっては確実な知識)である。末日聖徒の子供たちはこの神を認めて、この世の父親が耳を傾け聞きそして感ずることができると同じく、耳を傾け聞きそして感ずることのできるお方として祈れと教えられていて、また彼らはこの世の父母から、この具体的の神がこの神権の時代に実際語りたもうたという本當の証詞を彼らの生命そのものの中に吸収して自らのものとしている。

わがために生命を

失うものはこれを得べし



ポール・シー・アンドラス

予言者

ジョセフ・スミスを通して語りたまはる主は千八百三十一年に

「見よ、われ汝らにすべての事を悉く命ずるは至当ならず。そは、すべての事已むを得ざれば為さざる者は怠惰なり。賢き僕にあらざればなり。これを以て彼は良き報を受くることなし。われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。そは人自らの中に自由の意志ありて己れの事を自ら為す者なればなり。従って人善を為さば決してその報いを失わざらん。されど命令を受くるまでは何事をもなすことなく、疑いの心を以て命令を受けこれを不精不精に守る者は救われず」(教義と聖約 五十八章二十六節―二十九節)

と仰せになりました。神の眞の教会(モルモン教会)に加入して、すべての会員は、神の王国を確立する責任を認識して実行することが非常に大切であります。一人一人の会員が神の王国を確立する

働きに参加のできる方法はたくさんありますが、その良い例は次の通りであります。

日本の

或る家族の中の娘さんは千九百五十年に改宗してこの教会の会員になりました。彼女は教会にあって非常に忠実でありまた活動的でありましたから、教会が自分にとってどんなに重要であるかを数々の行いを以て実際に示しました。また教会の教えをその親類の人たちや友だちに説明しました。そこで二年後の千九百五十二年に彼女の妹もまたバプテスマを受けて教会の会員になりました。この妹も忠実でありまた活動的でありましたから、教会の教えを実行してこれらの教えをその親類の人たちや友だちに説明しました。すると、その翌年千九百五十三年にこの二人の姉妹の弟がバプテスマを受けて教会の会員となり、千九百五十八年にはこの一家の母親もまたバプテスマを受けて教会の会員になりました。その上、最初の娘さんはこれまでに数人の友だちを連れて来てこの教会の会員にして居ります。

これは神の王国を築くことに心から関心を寄せている一人の人が、どれほど多くの善い事を為し遂げることが出来るかというすぐれた例であります。つい先日、私は

もう一

つの良い例に気がつきました。最近一人の中年の男の人が町の通りを歩いて居ますと、ある建物の前にあるかんばんが目に入りました。この人は長年前にかつてモルモン教会へ行つたことがあるので「モルモン教会」という言葉に特別目を留めました。そこでこの人はすぐその次の日曜日とその支部の礼拝に出席しました。集りが終つてからこの人は支部長に向つて、その集りが非常に楽しかつたことや会員たちから受けた親切な歓迎と集会の中に充ち満ちている温い気持に非常に心が打たれたことを話しました。そして、昔この人が出席したことのあるモルモン教会の集りにもこれと同じ温い気持があつたと申しました。教会の会員一人一人は、会員たちにも会員でない人たちにも一様に親切にしようと思つて努力することによつて神の王国建設に貢献することができま

す。「ここにイエス弟子たちに言いたもう。人もしわれに従い来らんと思わば己をすて己が十字架を負いてわれに従え」

「己が生命を救わんと思ふ者はこれを失ひ、わがために生命を失ふ者はこれを得べし」

「人全世界をもうくとも己が生命(身と霊)を損せば何の益あらん、またその生命(身と霊)の代に何を与えんや」

「人の子は父の栄光をもて御使たちと共に来らん。その時おのの行為に従いて来ゆべし」(マタイ伝十六章二十四節—二十七節)

主御自身の口から出た以上の御言葉は、今私たちがこの記事で考へている事と関係して居ります。特に二十五節に於ける主の御言葉をよく考へてみようではありませんか。「己が生命を救わんと思ふ者はこれを失ひ、わがために生命を失ふ者はこれを得べし」。

主はここで己が生命を失ふと仰せになつて居る時に、単に死ぬこ

とを言つておいでになるではありません。主は、自分の生活のことばかりにかかわつて居る者はことごとくその生活を浪費するにちがいないが、他人のために働くことによつて神のための働きにその生活を用いて居る者はことごとく最も完全なまた最も満足な生活を送るにちがいないと仰せになっております。人生に於いて私たちは時間と才能と金銭とを持って居りますが、生来私たちは、私たちの時間と才能と金銭とを自分自身のためにする目的に使いたいと思ふ傾きがあります。しかし、主はここで私たちは私たちの時間と才能と金銭とを主の御役に立つように使う方がはるかに良いということ、自分の時間と才能と金銭とを自分自身のためにする欲望を満たすために使う者は空虚でほとんど無意味な生活を送るにちがいないと仰せになっております。私たちが自分を忘れて他人を助けるだけそれだけ私たちは生活にほんとうの喜びを持つにちがいません。

どんな

人でも神のために働くことのできる最も大きな道は、他人を感化して神の真の教会の会員にならせ、そして生涯神の真の教会の忠実な会員にならせることでありませぬ。これによつて、教会の会員一人一人は、真の神とその真の教会とをまだ知つていない親戚友人知己のことを考へるようになります。この人々が真の神とその真の教会とを知つていないので、今受けていない数々の祝福と喜びと満足のことを考へて下さい。また、もしこの人々が真の神を知つてその真の教会の会員になつたとしたら、どんなに多くの喜びがこの人々の生活に入つてくるかを考へて下さい。あなた自身の弱いという感じを忘れ、神の力と権能とを以てこの人々へ行きそしてこの人々に真の神とその真の教会のことを話して下さい。以上のことを実行して下さい、そうすれば、どんなほかの方法でも得られない喜びと満足の増加を経験するにちがいません。支部の諸集會に出席する新しい訪問者に就いては、いつも新しく来た人がないかとあたりを見廻し、この人々のところへ行つて挨拶をし、この人々に喜んで迎えられると思はせようになさい。あなた自身のはにかみの感じを忘れて、新しく来た人々へ(十頁に続く)



我ここに在り

我を遣わしたまえ

(下)

ストーリーリング・W・シル

主宣いけるは、われ先の者を遣わ

さん。而して第二の者怒りて、その

第一の位を保たず。

アブラハム書三章二七節二八節

主の事はまだ完了していない。まだ成就さるべき多くの任命がある。そして

昔の如く主は我々に「我誰を遣わさん、誰か我らの為に往くべきか」と呼びかけている。我々の答えは我々の「仕えたい」と言う熱意を反映させねばならない。希望はやはり心のかじである。今日我々の時代に或者は「我ここに在り、我を遣わしたまえ」と言つて熱意

を以て答える。或ルシフェルのような者は主の仕事からそれ、他の者をも彼等に從えてそらしめてしまふ。けれども何等反応を示さない或人々が居る。それは彼等が必ずしも主の言葉を信じないわけではない。彼等の懷疑主義が深くなつてそれを、一方の道、或は他の道と言ふように考へないのである。彼等は或はあまりにも彼等自身の事に熱中しているか、或は彼等自身の無関心又は惰眠の故にあまりにも深く不活潑に沈んでしまつたのである。けれども如何なる理由にせよその結果、人々に与えられた最も大切な機会が或場合には横の方へ押し退けられ取上げる者もなく捨て去られるのである。

目下教会の中で如何に多くの職が充足され

ずに居るだらうか、如何に多くの働き手が彼等の仕事に熱情を覚えずに居ることであるるか、我々は我々自身を覚醒させねばならない。我々は「善の道に励む」ことをもつと実習する必要がある。我々は我々自身の自由意志を以て、もつと多くの事をなし多くの義をもたらさねばならない。それはもつと強烈に神に仕えんことを望み、決して絶えることのない、より積極的な永えの熱意を意味するのである。

救

主は第一の位に在つて、第二の位に於て我々の教主となるように選ばれ聖任されたのであつた。けれども天上に於ける大會議に於て多くの他の者も此の現地に於ける責任ある指導者として選ばれ聖任されたのであつた。神は「高貴にして偉大な」一団の人々を指して言つた。「これ等の者を我、我が司たちとせん」主はアブラハムに彼がこれ等の内の一人であると告げた。主は又同様に、エレミヤを、その生れる以前から民の予言者として聖任した。(エレミヤ一章五節)

けれどもジョセフ・スミスは更に或非常に重大な情報を加えた。彼は言つた。「此の世の住民に仕えるべく召されたすべての人は世の造られる前に天上に於ける大會議に於て、既にその目的に聖任されたのであつた。」それは我々をも包含している。恐らく我々も高貴で偉大な人々の間に入つていたのであろう。我々は恐らく天国の會議で高く位置を占め大いなる責任を執つていたのであろう。

疑いもなく我々はその時神から全幅の信頼を受けていたのである。恐らくそこには我々が何故この時満ちたる神権の時代として知られる輝かしい時代の使命を遂行すべく保存されていたかに就てのよい理由があったであろう。

我々は直接補の取計いによって又神が管理する大会議によって此処に送られたと言うことを又我々は特別の目的を持って送られたことを知ることが何と大きなチャレンジであろうか。

今

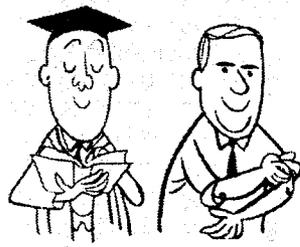
召しに失敗したことを一寸想像して見よう。思うに我々は召されたけれども選ばれることに落第したのである。何となればその召しに応じなかつたからである。若し我々が選ばれることに落第したとしたら、それは実に我々が此の最大なる仕事に参加することを望まなかつたからである。ジョン・A・ウィッソオは次のように書いています。

・福音のメッセージを受ける人は単に神性なる誠命によってすべての彼の隣人を警告する義務を負うているばかりでなく、この世の造られる以前に既に、この現世で福音を求め見出すべく特権づけられている人は全力を以てそれを他人にもたらすと言う永遠の用意をなしたのである。それは天に於て聖任された指導者としての地位を顕現することを意味する。

主は我々がその召しにふさわしい者となるよう我々の積極性を進展させ智識を豊富にするよう繰返し助言された。主は命ぜられる

迄何もしない者の恐るべき結果を我々に警告した。人生に於ける最高の報いはその機会を把握し自己の能力を以てその義務を最も受け入れられるようになる人、即ち積極性を最も賢明に用いる人の為に保存されている。

けれども或場合に我々は貫徹出来ずに終る。或場合には最も簡単な責任でも、それを果すには最大な努力を必要とする。そこで我々をよくこれを飛魚が水面のわずか上を飛んで再び水の中へ沈んで行くのに比べる。このよう



さんには更に大いなる意志が、大いなる意欲、大いなる知識と切実さがある。

機

略

富んだ教養の深い精神的指導者が捲むことな、積極的な進取の氣象を以て正しいことを彼自身のイニシアチヴによりなすことが出来るのを見ることは如何に気持のよいことであるうか。我々が時々、モルモンの子言者のようにな為し過ぎることから差し控えねばならなかつたような或模範を読むことは如何に思いを新にされるであろうか。

屢々我々は神が我々に神の仕事をする権能を与えられたと語る。けれども我々自らは、

その権能を有効ならしめるよう希望と責任感と勤勉さを進展させねばならない。人がその目的を達成するに必要なすべての準備をなして前以てそれが成功すると充分な自身を持っているのを見ることは如何に靈感されるであろうか。彼は失敗しないことを知っている。何となれば彼は彼自身が失敗することを許さうとしないからである。知能は大切であるが為さんとする積極的な意志は更に大切である。折にふれて、主は或特定の人又は一団の人々を友と呼ばれた

(教義と聖約 八十四章六十三節 八十四章

七十七節、九十四章一節参照)

世の救主の友となる為には、同様の関心と責任と信じていることに対する充分な確信を持たねばならない。物事を正しく観察し、単に僕たるばかりでなく友としての高い位に資格ある者たるに必要な事をなす為、我々は単に神に従うことに加えて、神と同意(一致)すべきである。

イエスが「父よ、われ此所に在り、われを遣わしたまえ」と言った時、彼はそれが受難と敵対、又死をすらも意味していたことを知っていた。けれども彼は準備した。このことは同様に多くの大いなる指導者にとっても真実であった。主が十字架にかゝられてから後誰かゞその後を継いで責任をとらなければならなかつた時シモンペテロが実質に於て「われ此所に在り、われを遣わしたまえ」と言つた。誰か異邦人に福音を伝える人が必要であ

った時タルソのサウロは言った。「主よ、我に何をなさしめんとし給うや？」と、換言すれば「われ此所に在り、われを遣わしたまえ」と言ったのであった。彼は決して「好きになれるかどうか少しためして見よう」などは言わなかった。

主がジョセフ・スミスに眞の教会が地上にないことを告げられたのは彼がわずかに十四才半の時であった。ジョセフは心の中に「われ此所に在り、われを遣わしたまえ」と言い彼は殉教して彼の血を流す迄決して一度も動揺したことはなかったのであった。忍耐を以て持続することは進取の気象を以てスタートすると同様に大切である。キユーリー夫人はラジウムの発見の爲、其の生涯を有効に費した。彼女と彼女の夫ドニエルは遊青ウラン鉱からラジウムを分離する実験を四百八十七回失敗した後、夫のドニエルは絶望して言った。

「これは不可能だ。百年後には或は可能となるかも知れないが決して我々の時代には出れない」と。けれどもキユーリー夫人は決然たる顔色を以て彼に向つて言った。

「百年経ってまだ失敗しようとも私は私が生きている限り此の仕事を止めません」と。主の仕事にたずさわる大いなる指導者たちがその生活にこのような忍耐と決意を顯すのを見る事は何と喜ばしいことであろうか。

天から与えられた重要な仕事をなす我々にとってこのような資質は如何に大切なことで

あるうか。永遠の大きな祝福を享受せんと期待する者は、自ら此のような祝福をもたらずに自分に自分を授けるべきである。そして我々の予想される最も悲しい経験は多くの召されたる者の一人となつてわずかな選ばれた者の内に入らないことである。(教義と聖約 二一章 三十四節)

それは我々の肩に在るのである。そして我々は我々自身を天の目的と共に発射し、神への奉仕のゆるぎなき目標を以て統禦すべきである。我々は我々自身の運命の建築技師である。そしてすべての人は、それぞれの働らきに應じて受取るであろう。神の大きな質問(呼びかけ)は常に我々の前にある。それはスリルのあるチャレンジである。「われ誰をつかわさん。誰か我らの爲に往くべきか？」

嶺主自身によつて与えられた回答
「われ此所に在り。われを遣わしたまえ」
：父よ。御旨の成らんことを、栄光とこしえに父にあれ」を以て召しに答えようではないか。

以上のことを実行して下さい、そうすればあなたは神のために働いているにちがひありません。

あなたは 天にまします御父のために
ありましようが、前に御父が約束なさいましたように、あなたは生命を得るにちがひありません。

「ここにイエス弟子たちに言いたもう、人もしわれに従い来らんと思わば、己をすて己が十字架を負いてわれに従え」

「己が生命を救わんと思ふ者はこれを失い、わがために己が生命を失う者はこれを得べし」

「人全世界をもうくとも己が生命(身と霊)を損せば何の益あらん、またその生命(身と霊)の代に何を与えんや」

「人の子は父の栄光をもて御使たちと共に来らん。その時のおのの行為に従いて報ゆべし」(マタイ伝十六章二十四節―二十七節)。

(伝道部長メッセージ 七頁より続く)

がこれまで一度も来たことのない所に在つてまた知らない人々の中に在つてどんなに感じているにちがひないか想像してみして下さい。それから行つてこの人々を温く心から歓迎して下さい。



極東におけるモルモン

私の改宗

福原俊明



この唯一なる真の神の教会に導き入れられて以来早くも八年有余を閲し、その間この取るに足らぬ身に注がれた神の祝福を思う時、私の心は限りない感謝に溢れるのである。そして今日この誌上に私のさゝやかな霊的体験を語る事を許されたことを大いなる特権と感謝している。

一九五〇年の十月末、北国の旭川にも珍しい程の大雪の朝の事、友人を訪れての帰り途、二人のアメリカ人が何か家を探しているらしい様子を見てふと言葉をかけたのがこの教会の宣教師との接触の初めであった。それはネルソン及びビヤウムの二長老であった。彼等は前日旭川支部開設のために到着し、住むべき貸家を探して

いる最中であつた。

それから間もなく誘れるまゝに、駅前の彼等の仮の宿を訪問して、ジョセフ・スミスの話を初めて聞いた。私はそれ以前にも、バプテスマこそ受けなかつたが、新教の教会に二年通つて居り、又カトリックにも友達に誘われたこともあつて、キリスト教に興味を持つと同時に、また一般キリスト教会及びその信仰のあり方に疑問を抱いていた。いろいろと牧師や信者達に尋ねて見ても満足は得られなかつた。この様な時に、モルモンの宣教師を知り、好奇心も半分手伝つては居たが、しかし、毎金曜の夜いろいろな質問と用意して行つては話を聞く中に、この回復された福音にいいよひかされる様になつた。

この間にも私はモルモン経を読んでいた。初めの頃は余り進まなかつたが、或る時、之こそ真のイエス・キリストの福音であり、之

によつてのみ救いは得られるとの靈感を受けて以来、忽ち三分の二以上を二、三時間で読了してしまつた。

そして、或る朝、宣教師を訪ねた時、呉屋光仁長老が居て、(ネルソン長老病氣のため)私にバプテスマを受けたいかとたずねた。私は天にも上る心地であつた。父母もバプテスマを快く許してくれ、それから日々は更に謙遜な祈りに明け暮れた。

忘れもせぬ一九五一年二月二十八日、零下二十度ばかりの晴れ渡つた朝、聖なる儀式の水から上つた時、今迄ひいていた風邪もどこかへ吹き飛んでしまつて、ほんとうに身も霊も新たに生れたという感じに包まれていた。

私はやがて帰宅し、自分の室に独り感謝の祈りにひざまずいた時、未だかつて知らなかつたすばらしい霊的経験をいたゞいたのである。祈りの言葉を口にして間もなく、み霊が私の上に降り、私の霊は真に筆舌に尽し難い清い喜びに包まれた。日の栄光での喜びもかくやと思われる聖なるみ霊との交わりの一時であつた。そして私ははつきりと神が真に生きてましまし、イエスがキリストである事を聖霊の証によつて知る事が許されたのである。この様な事がその後二三度続いた。私がこれの真の価値と尊さとを完全に知つたのは、昨年の夏、ロレンゾ・スノー大管長の体験談を読んだ時の事であつた。彼もバプテスマをうけて間もなく、霊的経験を求めて祈つた時に大いなる聖霊の証をうけたのであつた。そ

して私の経験がスノー大管長のそれと殆ど同じものである事を知った時、私は更に大いなる喜びと感激とに包まれ、神が昔も今も変わらずまします証を強めたのである。神は大管長にも、又極東の伝道部の一支部の会員にも同じ恵みを平等に下さるのである。

神は真に生きてましまし、イエス・キリストはその独り子であって、我教会こそその唯一の教会である。そしてジヨセフ・スミスは真の神の予言者である。私はこの事を心から

知り、且証する。そして私の証はイエスがベテロに仰せになった如く、血肉によらずして天父が聖霊によって下されたものである。私は之を否む事が出来ない。そして一人でも多くの人が証をうける事が出来る様心から祈って已まない。

私の貧しい体験ではあるけれども、心より謙って述べた次第である。主の恵凡ての人に豊かならん事を。すべて救主イエス・キリストの御名によって。アーメン (旭川支部長)

「モルモン」という名に依って

浅田 恆 則



終戦直後、天皇崇拜にとつてかわってネコも

杓子もアメリカを喜こんでいた頃、私も弥次馬根性を發揮して文明人のこけんにかゝわると思つてアメリカに

ての常識を持ったと喜こんだものでした。

ところで田舎の方で毎年収穫後、報恩講と云つて各年令層に応じて仏の名に依つて感謝祭をするのですが、それが全くの無礼講なので私はひどく反ばつてを感じ毎年その季節になると金沢の叔母の家へ逃避するのです。だから決して無神論であつた訳ではなく、むしろ全智全能なる神がまします事を堅く信じていましたし、又その頃から聖書も読んでいたし、宗教に非常に興味を持っていた訳です。そして或る時遂に私はキリスト教会の門を叩いて真面目な求道者になつた訳です。

就いて学んだものでした。その中にふと「ブリガム・ヤング、モルモン教」と出ていたのが頭の中にひっかゝつて、それがキリスト教の一派である事を知って我ながら文明人とし

ての常識を持ったと喜こんだものでした。

最初は牧師に従順でしたがその内に疑問を感じて質問するのですが、よく答えてくれなかつたり、体よく逃げられたりして脳味噌の固まらないまゝに過し、その様な教会に不満を感じていた矢先、ちようどモルモン教会の展覧会があつた。かねて長い間懸案であつたのでこれは幸いとばかりかけつけた訳です。そうしたら驚ろいた事には、アメリカにもキリストが現れ又聖書とは違つたもう一つの神の言葉があるときいて、この宣教師どうかしているなあと思つたのですが、彼等が余り熱心なので次の日曜日に約束して帰つたのでした。次の日曜日にモルモン教会の集会場に行くところには或る家の二階の畳敷で「これじや新興宗教と何らの変りがないわ」と思つて帰つたのでした。

この事を牧師に絶体に口にしませんでしたが隣近所の人々に現在の長老教会とモルモン教会と二つかけ持つてゐる事を話したら、その人々からあれはインチキ宗教で一夫多妻でと大変非難をあげて断然反ばつ心が湧き、こんな田舎つべに何がわかるかと、モルモン教の事をろくすっぽも研究しない私は大いにモルモン教の肩を持つて、これを機会に勉強する事にしたのでした。それでも相変らず当教会の宣教師に理くつをこね又長老教会の牧師を疑い仏教徒を軽蔑していたのでありますが、ある時一長老から「貴方は本当に可哀そうな人です。悔い改めないで救われぬわい。」と強く叱責され、その時からはっきりと長老

信
仰
と
証
詞

真理とは……は……

松 本 山 田 裕 子

「真理とは……」。夕食後のひととき家族がこたつを囲んで色々な話にふけっている時ふとこんな話題が持上った。「さあーむずかしいね、何が真理なんだろう。裕子ならわかるだろうね」と父母がいった。すると義兄は「いや、裕子さんならキリストの福音は真理であると言うだろう。もちろんキリストの教えや思想は誤りとは言わないよ。しかし真理とゆうものは、人間一人一人が経験によつてさがし出すものであって、だれの教えにもたよるべきではないよ。」と言った。そこで私は再びはつきり真理について考えて見た。辞書で「真理」と引くと「まことの事、真実の道理」と書かれていた。私は真理のわからない、人間ひとりひとりがさがし出さなくてはならない人生をこのように想像した。

今、真暗な一寸先も見えない山の中に我々は立たされているとする。そこでだれかが

「真理に向つて進め」と命令する。皆は思い思いの方向へ真理を求めて進んで行く。ある者は右が真理の方向だろうと思つて右へ進んでいった。しかし先が見えないので、ずんずん進んでいくうちにガケに落ちてしまい、一生進上る事ができずに人生を終つてしまった。又ある者は左へ進んだがそこはやぶで、さんざん迷つた結果、又もとの所へもどつてきてしまった。義兄の言うように、この人にとつて左の方向へいってはいけないとゆう良い経験にはなつたが、ぐずぐずしている内に結局真理の方向を見つげずに、その人も人生を終つてしまふのである。

しかしこの時真理の方向に光があり又、そこへ導びいてくれる何ものがあつたら、私たちはその光の方向に向つてまい進する事ができる。この光が福音であり導びいてくれる者が聖霊である事を私は良く知っている。し

教会にサヨナラをして末日聖徒になる決心をしたのです。

その時までの私は単に教会へ行つていただけしか云えなかつたのに末日聖徒となつてからは「神は生きています、キリストは救主である」事を誰にでも告げる事が出来る様になりました。

今でもモルモンと云う名が頭にこびりついていた事又一長老が悔い改める様に勧めた事は正に聖霊の導きであつたと心から感謝しています。

(東京西支部第一副支部長)

かしく多くの人がその光りを信ぜず勝手に方向へ進んでいくのは大変残念な事である。義兄ばかりでなく多くの福音を受け入れない人でも、キリストの教えがまちがいでない事をしつていたのである。だからこれらの人々もつと真理の前にへり下つて、もつと研究するならば、きつと受け入れる事ができる事を私は確信している。又義兄の言うように、経験によらなければ、真理を本当に知り得る事は出来ない。福音の知識だけを持つていては、行する事により、いっそう福音の真理である事を知り得るからである。それは福音にそつた生活をして人々が、いかに美しい、正しい毎日を送っているかを見る事によつてもわかる。これらの事を考えるにつけても、私たち、ひとりひとりが、良き宣教師として、いかに福音が真実であるかを人々に示さなくてはならない事を強くかんじ

させられる。しかし真理に向う道はけわしく、石がごろごろして非常に進むのに困難である。何人かの人々は余りの苦しさに、足をとどめ、あたりを見まわすと、その道から何本かの、いかにも、進み安そうな道に別れているのが、かすかに見える。かれらはその別れている道の行く先も考えずに、ただ今の苦しきからぬけ出したいばかりに、その道へそれてしまうのである。このように真理の道に進み得る人はごく少数の人になってしまうのである（マタイ伝七章三節）M I Aのレッスン第十九課のスターリング・W・シル長老の話の中に

並みの走者は息が切れる迄走って止める。けれども、徒競争の選手には常に走り続けさせる鉄の如き意志がある。筋肉共に完全に疲れはると前者は休息を求め、けれども選手は、重い足をひきずりながらも走り続ける。

心の中の元氣と活力がそうさせているのだ。並みの走者は優秀な点が取れるとそれで満足するが、選手は最善を尽し、更にもっと努力しようとする。

とゆう詩があった。私たちは例えどんなに真理に向う道が苦しくとも、この詩の中にある選手のような強い鉄の如き意志と努力により、きつと真理を体得する事ができるのである。

私はここに再び、真理とは神の与えて下さった福音であり、それに導びいて下さる者は聖霊であり、又私たちのつよい意志と努力によ

ってきつと真理を体得する事ができる事を心から証しする。

御 霊 の 導 き

札 幌 藤 田 秀 光

我らの主イエス・キリストのもとに、末日と云われている現在、この地上に誕生して、福音の喜びに逢い、末日の主の業のもとに働く事が出来す事を心より感謝致して居ります。

現在私は両親より頂いた肉体を書して病の床に有りますが、ふり返って私の三年の主の道をたどって見ますと、主の御業と、また深い愛、導きが各個人に如何に働らかされて居るか、良く知ることが出来、心より感謝の氣持で一ぱいです。私は今主の御霊の導きに頼りつゝ、手を動かして居ります。なぜならば御霊の導きなくして、父なる神の福音を伝える事は不可能だからです。父なる神の証人パウロは、コリントの兄弟に次の様な手紙を送っています。『神の御霊に感じて語る者は誰も「イエスはのろわるべき者なり」と云わず、また聖霊に感ぜざれば、誰も「イエスは主なり」と云うを能わず（コリント前書 十二章三節）。

私も兄弟パウロと同じく、証詞いたします。

これらの話をすべてイエスキリストの御名によって申し上げます。アーメン

確に、私達には聖霊の導きが必要で有ると。先日私の愛する宣教師の一人は、私にこの様に申しました。私はより以上現在、御霊の導きを必要とし、心よりこの福音を一人一人に伝えなければならぬ。

この宣教師と同じ様に、私達モルモン教徒は、現在もまた、これからも強い主の御霊の導きを必要とします。必要としないと云う人が居りますならば、あなた方の霊は、サタンにさへげているのです。今 あなたは、主の業に反対している。ルシファに亡ぼされるでしょう。私達には、どの道を選んでよい自由意志が有りますが、父なる神は、自分の子供の亡び行く様を見て、どの様な哀しみが有るか、私は計り知ることには、できませんが両親が、自分の愛する「子を失った時の、かなしみを見て、また知る時に、如何に大いなるかなしみを持たれるか、想像がつくと思えます。

アダムより約六千年の間、沢山の人々が、この地球に生を享けましたが、前世に於て私

表紙の説明

ソルト・レーク神殿

ユタ州ソルト・レーク市に在るソルト・レーク・モルモン神殿は西アメリカに於ける最も著名な建物である。

此処で教会の最も神聖な儀式が行われるのである。彼等は前世から短い現世を通じ永遠の来世に至る、生命の継続を述べる。神殿の儀式は生者と死者双方の為に執行される。

ソルト・レーク神殿区域は一八四七年七月二十八日に選定された。その時、ブリガム・ヤング大管長は同僚と共に歩いてきたがその杖を地につけて

「此処に我々は我々の神の神殿を建てよう」と言った。

一八五二年十月の一般大会で全員一致を以て

「我々は北米の山脈中で得られる最上の資材を以て神殿を建てる」

と言うことが決定された。其処で小コートン・ウード峽谷の花こう岩が使用された。

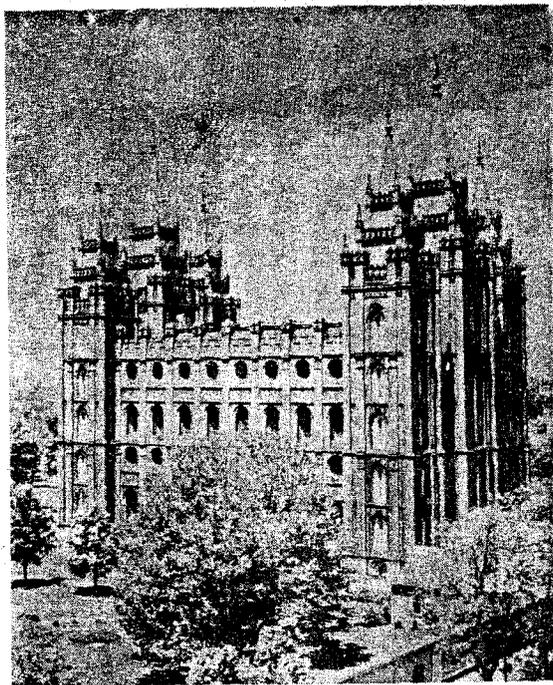
一八五三年の二月十四日にソルト・レーク神殿の土地の鋳入れがなされた。一八五三年の四月六日にその礎石が置かれた。その時、ブリガム・ヤングは信仰に溢れる心を以て次のように我々に告げた。

「此処に神殿が建てられるべきであること
を私はよく知っている。神殿建設に着手することは此の民の義務であることを私はよく知っている。今或人たちは、どんな建物になるだろうか知りたがっている。兄弟たちよ、完成の暁迄辛抱強く待ちなさい。そして進んでそれを完成するように貴方の手を働かせなさい。私はその結果を知っている。私は啓示又は示現に就てめったに語らない。けれどもこのことだけは述べよう。五年前の七月に私は此処に居た。そして霊の内に我々が礎石を置いた処から十呎も離れていない処に神殿を見た。今迄私はどのような型の神殿を建てるべきか相談しなかった。何故？それは私に示されていたからである。私は決して其の土地を見たことがなかったがその示現が其処にあった。そして私は眼前に恰も現実であるかの如くはっきりとそれを見たのであった。」

又他の時に彼は語った。

「私は主とこの民の授けにより主に家を建てることを決心した。貴方は」主はこの内に宿り給うであらうか、と問ねるかも知れない。主はそれを望まれた時になされるであらう。主に指図する特権は私にない。けれども我々は主が気が向かれた時に訪ねられる家を主の為に建てよう。主は自ら其処に宿り給うかも知れないし或は誰かその僕たちを遣わされる時、我々は彼等の為に適切な宿所を持つことが出来る。私は自分自身の家を建てた。貴方たち殆どの者が同様に建てられた。今や我々は主の家を建てようではありませんか」

この建物に使われている早期のすべての岩石は市の東方の花こう岩山から遅々として動



今月の主な出来事

二日 (1)1836年。オハイオ州オートランドの神殿内にて予言者シヨセフ・スミスとオリヴァカウドリーの前に主イエス・キリストは親しく現われたまい。神殿を嘉納したもうた。又、モーセ訪れ「集合の鍵」をわたし。エライヤス訪れ権能を授与。エライジャ訪れて、マラキの予言を直接に成就した。
(2)1814年第5代大管長ロレンゾ・スーが誕生した。

四日 1870年第8代大管長ジョージ・アルバート・スミスがソルト・レーク市で誕生した。そして又、彼は1951年81才の誕生日たるこの日にソルト・レーク市の自宅で逝去された。

六日 (1)1830年。ニューヨーク州のピーター・ホイットマーの家に於て6人の会員をもつて末日聖徒イエス・キリスト教会は設立された。6人とは、すなわち、シヨセフ・スミス、オリヴァー・カウドリー、ハイラム・スミス、ピーター・ホイットマー(初代)、サミュエル・H・スミス、デビッド・ホイットマーであつた。真のキリスト教会の回復の記念すべき日として末日聖徒達の忘れてはならぬ意義深い日である。

(2)1841年イリノイ州ノーヴー市に於てこの日大会が開かれナヴー神殿の隅石が据えられた。

(3)1853年ソルト・レーク神殿の隅石が据えられ、4年後の1893年の同じ日、ウツドラフ大管長により献堂された。

(4)1877年ユタ最初の神殿としてセント・ジョージ神殿が献堂された。

七日 (1)1847年ブリガム・ヤングを隊長とした144人の選ばれた開拓者の先発隊が、西方に向けウィンター・クオーターズを出発した。

(2)1889年。ウィルフオード・ウツドラフは大管長として支持された。この第4代大管長の下にはジョージ・Q・キャノンとシヨセフ・F・スミスが副管長として召された。

八日 1829年。予言者、シヨセフ・スミス、金版の翻訳再び始める。6月の中には完成するが、オリヴァ・カウドリーが書記としてシヨセ

く牛車によって運ばれたのであった。小コートン・ウード峡谷の石切場迄到達するのに三頭又は四頭立ての牛車で三日か四日はかゝった。それから一時に一塊の花こう岩を横んで又建設地迄戻ったのである。一個一個の石はそれぞれの場合に適合するように石切場に於て切られそれ等はその間に何もはさまなくともよいようにきちっと積み重ねられて行った。これはヤング大管長によって主張されたのであった。何となれば、彼はその建物は永えに立たねばならぬと言ったからである。彼は作業者たちをして、ソルト・レーク神殿の土台

の一部を撤回再建させたのである。その理由は永遠に持続させねばならぬと言う考えによると言われた。
「私は福千年を通じて持続するような様式で建てられる神殿を見たい。これが我々が建てるであろう神殿の唯一のものでない。数百の神殿が主に献堂されるであろう。この神殿は末日聖徒によって此の山脈中に建てられた最初の神殿として知られるであろう。そして福千年が過ぎ去る時福音の恩恵に浴するアダムとイヴから彼等の最後の子孫に至るすべての息子娘たちが数百の神殿

内に於て彼等の子孫による代理の儀式の執行により贖われるのである。私はこの神殿が十九世紀に於けるこの山脈中の神の聖徒たちの信仰、忍耐及び勤勉の誇りある記念碑として立つことを望む。」
ブリガム・ヤング大管長は一八六三年十月六日の大会でこのように挨拶した。
ソルト・レーク神殿はその建設に四十年間かかったのである。それは一八五三年四月に起工させられ、ウィルフオード・ウツドラフ大管長が一八九三年四月六日にこの建物を献堂したのであった。

4月

4月

フ・スミスを助けた。

九日

(1)1951年。デビッド・O・マツケイを大管長とする現在の大会長会が組織された。

(2)マツケイ大管長は1906年のこの日、シヨセフ・F・スミス大管長により、使徒に聖任されている。

一 1830年の4月6日は火曜日なのでこの日が最初の安息日にあたり。ピーター・ホイットマーの家で集会が開かれた。オリヴァ・カウドリはシヨセフ・スミスの命により、最後の神権時代の権威ある僕としての第1の公けの説教をした。この日にバプテスマを受けた者が6人あつた。

一 1828年。マーテン・ハリスを書記としての金版の翻訳始まる。6月14日まで完成した原稿は盗まれてしまつたが、これがいわゆる「失われた116頁の原稿」である。

ハリスがアントン博士の所に行つたのは、4月12日より前の事である。

二六日

(1)1832年。ミズーリ州ジャクソン郡の大会に於てシヨセフ・スミスは大管長として支持されている。しかし、1月25日オハイオ州アムハストに於て先に按手聖任されていた。大会長会は1833年3月18日に組織され、シドニー・リグトンとフレデリック・G・ウィリヤムスが副管長となつている。

(2)1838年。ミズーリ州ファー・ウエストに於て主より教義と聖約115章の啓示が与えられた。ファー・ウエストは奉納されるべき聖き土地であり、ここに主の宮居を建つべしとの命を受けたのである。

(3)1839年。迫害者達の起きぬ午前1時に12使徒会の7人は集会を開き、ファー・ウエストの神殿の隅石を据えた。

今月の主な出来事

そしてこれはどんな記念碑であろうか

その基礎は幅十六呎、深さ十六呎である。

地下室の壁は厚さ九呎で上部の方は六呎である。建物は高さ一八六・〇五呎、幅一一八・五呎である。東中央の塔は高さ二一〇呎で十二呎五・五吋の高さの金箔のモロナイ天使の像が載せてある。この像は有名なユタ出身の彫刻家サイラス・E・ダリンの作である。

建物内部の彫刻は豪華である。職人は実際の経験と靈感を通じて芸術家となつたのである。塗装は美しく霊的な感じに充たされる。神殿はブリガム・ヤング大管長の指示の下に開拓者建築技師トルーマン・O・アングル

によって設計された。この有名な建築の著目すべき点は、生活の苦しい時に、設計され起工され遂行されたことである。土地、建物、製材所、製粉所、食べるべき食物、着るべき衣服、酷暑の炎熱、酷寒の雪、いなご及びインデアンとの戦い、これ等のことでモルモン開拓者の頭の中はしばいで他に何を考える余裕もなかつたと貴方は想像するであろう。けれどもそうではなかつた。これ等、すべての物質的なものの背後に存在する大いなる霊的な理想が神殿に象徴された。それは四十年間に亘る彼等の希望の焦点であつた。

四十年間に亘つて使徒たちはこの主の家を建てるべく且つ働らき続けたのであつた。

一個々々の石が使徒たちの信仰、撓まざる献身及び犠牲を物語っている。

この神殿は教会の為に建てられたが教会そのものと同様に人々の生ける神への信仰を代表しているものである。

一つ一つの窓が生ける者及び死せる者への希望の光を放っている。一本一本の尖塔が全世界に向つて、真のキリスト教の信仰及び標準を真剣に受け入れ、実施するすべての者に日の栄えに高められる救いが待っていると叫んでいる。

四十年間に亘つて使徒たちはこの主の家を建てるべく且つ働らき続けたのであつた。一個々々の石が使徒たちの信仰、撓まざる献身及び犠牲を物語っている。この神殿は教会の為に建てられたが教会そのものと同様に人々の生ける神への信仰を代表しているものである。一つ一つの窓が生ける者及び死せる者への希望の光を放っている。一本一本の尖塔が全世界に向つて、真のキリスト教の信仰及び標準を真剣に受け入れ、実施するすべての者に日の栄えに高められる救いが待っていると叫んでいる。

若き末日聖徒の爲の モルモン経物語

エマ・マー・ピーターソン著*渡部正雄訳

才五十五章

アルマは地上から
取去られた

(アルマ書第四十五章)

偉大な予言者であり又ニーファ
イ人の大判事であったアルマの伝
道は終りに近づいて来ました。

或日彼は息子のヒラマンを傍に
呼んで「これまで保存されてきた
あのいろいろな歴史について私が
お前に言ったことを信ずるか」と
云いました。アルマは既に彼の息
子を記録の保存者としていたので
ありました。

ヒラマンは「はい私は信じます」
と答えました。

そこでアルマは「お前はやがて
降臨したもうはずのイエス。キリ
ストを信ずるか」と云いました。
そこでヒラマンは「はい私は貴
方の語った事すべてを信じます」
と答えました。

アルマは「お前は私の誠めを守
るか」と問ねました。

「はい私は全心全霊を以て貴方の
誠命を守ります」とヒラマンは云
いました。

これを聞いたアルマは大変喜ん
で忠実な息子に向つて「お前は幸
福である。主なる神さまはお前を

して此の地に榮えさすであろう。
見よ、私がお前に予言することが
ある、けれどもその予言の成就す
る迄はお前はこれを公にしてはな
らない。それであるから今から私
が語る言葉を書き記せ」と云いま
した。

そこで彼はキリストは救主とし
て降臨するであろうこと又その四
百年後にはニーファイ人は、全国
民こそつて滅亡する程悪くなつて
しまうであろうことを宣言しまし
た。滅びなかつた者はレーマン人
に加わるでありましょう。このよ
うにしてニーファイ人の存在は止
むでしようとは云いました。

この予言をしてからアルマは彼
の息子たちを残らず呼んで祝福し
ました。彼は又教会及びその中に
忠実に留る者を祝福しました。彼
は同様に義人の為にその地を祝福
し悪人の為にその地を呪いました。

アルマは彼の家族の者達に別れ
を告げて家を立去りました。彼は
ゼラヘムラ市を出てミレク市の方
に向つて行きました。けれどもそ
こに到着しませんでした。彼は地
上より消え去つて何の便りもなく
なつてしまいました。ニーファイ
人達は彼がどうなったのか、果し

て死んだのか、そのまま天に取り
上げられたのか、わかりませんで
した。

けれども我々は彼が義人であつ
た事を知っています。又彼がみ霊
によつて昇天したとの説、或はモ
ーセの如く主なる神の御手によつ
て葬られたとの説は教会に言い伝
えられたけれど聖文には主なる神
さまがモーセを其の御許に寄せ給
うたとあるから我々は主なる神さ
まがみ霊によつてアルマをもその
御許に寄せ給うたのであると思ひ
ます。我々がアルマの死と葬に就
て少しも知らないわけもここにあ
るのであります。

才五十六章

自由の旗

(アルマ書第四十六章)

ニーファイ人達は自分自身を如
何に治めるかを学ぶことが困難で
ありました。彼等はそのままつりご
とを民の声に従つて処理するのが
最上であると教えられていました。
それは、彼等は自ら治めるべきで
あろうことを意味します。けれど
もまた王様を持った方がよいと思
う、或人々がいました。

教会の会員たちは予言者たちが

ら教えられていたので自由の意味を理解して居りました。彼等は又自由を持つと云うことは王やその僕等に妨げられる事なく彼等の欲する儘に主なる神さまを礼拝出来ると言う意味であることを知って居りました。彼等は主なる神さまを愛し主なる神さまに仕えたいと思つて居りました。彼等は悪い支配者によつて彼等の宗教的礼拝を止められる事を欲しませんでした。又彼等は彼等の宗教を嘲笑した悪人共によつて加えられた迫害の中に戻る事も望みませんでした。自治ということとは彼等を守ることでした。それは彼等が自分等が思うままに礼拝しその他自由の民がなす事が出来るすべての事をする権利を守る律法を自ら造ることが出来ることではありません。

教会に属してはいない悪い人はこれを信ぜず王を欲しました。彼等は彼等の内より一人を選んで彼等を支配させようとした。これらの者の内の一人にアマリカヤと云う者が居りました。彼は王になりたいと望みました。彼は人々の間に行き叛乱を起させようとした。或身分の低い判事等はもつと権力が欲しかったので

彼を支持しました。アマリカヤは彼等に若し彼等が政權を覆えすのに彼を助けたら彼が王になってから重要な地位を与えると約束しました。これにより民の内に分裂が起りました。軍司令官のモロナイが此の事を聞いて大變怒りました。彼はその衣を脱いでこれを大きく裂いて旗を造りました。そしてその上に彼は次のような言葉を書きました。

「我等の神と宗教と自由と平和と妻子との為に」彼はこれを竿の先に掲げて自由の旗と呼びました。

彼は民が自分たちの自由を守りアマリカヤとその従者共が政權を倒そうとする事を防ぐ事を教えられねばならぬと云うことを知っていました。

モロナイは武器に身を固めました。そして彼はへりくだってひざまずいて主なる神さまに向い義人が民の迫害や悪王の妨害を受ける事なく礼拝出来るよう国内に自由が保存されるように頼んで祈りました。

彼はあたり一帯の地を選ばれた自由の地と定めて言いました。「キリストの御名を受けたために

嫌われるわれらが、自分の罪悪で自ら亡びを招くようになるまでは、神は決してわれらが踏みつけられまたは破壊されることを許したまわぬ」と。

モロナイはそこで民の間に行き、すべての人がその自由の旗に何が書いてあるかわかるように振って歩きました。

そして彼は大声を出して

「この地にこの旗を立ててこれを守ろうと思ふ者は、みな主の御力によつて出て来い。そして、主なる神の祝福を得るために自分の権利と宗教とを護るといふ誓いを立てよ」と叫びました。主なる神さまを愛する人々は武器を着けた儘集つて来ました。彼等は彼の要求した誓約をなしその衣を裂いてそれを守る証拠としました。

そこでモロナイはアマリカヤの歩いた国内のすべての処に行き自由を守ろうとする人々を彼の旗の下に召集めました。間もなくアマリカヤに従つたよりもっと多くの人が彼に従いました。曾てアマリカヤを信じた多くの者が今や彼の目的の正しさを疑いだし彼の許を去つてモロナイの列に加わりま

した。悪いアマリカヤはこれを見た時出来るだけ多くの彼に従う者を連れて荒野に逃走しました。モロナイは彼等が逃亡する事を欲しませんでした。

彼は彼等がレーマン人に加わつてニーフアイ人に対し再び戦いをしかけてくるのを恐れたからであります。そこで彼は追跡して彼等の内大部分の者を捕えました。けれどもアマリカヤと少数の従者は逃亡しました。モロナイは捕虜をゼラヘムラに連れ帰つて自由の誓約を告げました。彼は彼等がもう一度忠実な市民となつて此の誓いを立てることを希望しました。大部分の者がその通り従いましたが少数の者がこれを拒んだのでこれ等の者は殺されました。

勇猛なモロナイは今や国内をくまなく歩いてすべての処に自由を確立しました。

才五十七章 裏切者アマリカヤ

アマリカヤは、レーマン人の本部に行きその王を訪ねました。彼は王をそそのかしてニーフアイ人に対して戦いを始めさせようとした。王は彼に説得されてその

民に戦争の準備をするよう命令を出しました。

レーマン人達はすぐ又戦に行く事を欲しませんでした。彼等は最後の戦いに於ける彼等の敗北を憶えて居り再び戦争をしたら死滅するのではないかと恐れしました。けれども彼等は又王の命令に従わなかつたら王がどんな事をするかわからないと思つて恐れしました。

恐れたレーマン人達は王の怒りを避け又ニーファイ人との戦いから逃れる為には逃亡するのが最上の策だと考えました。彼等は武装の場所として知られるオナイダと云う処に行きました。

王はこれを聞いて大変怒りました。彼はアマリカヤに自分の護衛兵に対する指揮権を与え、他の者をも同様に従わせるよう若し従わない時は殺すべしと命じました。アマリカヤはするい人間で此の任命を大変喜びました。彼は心の内でレーマン人の王を退けてニーファイ人と戦いを始めようと思ひました。軍隊の指揮権を握つた事は彼のこの悪だくみを助けました。彼は王の護衛兵を引率して残余のレーマン人の居るオナイダに行きました。其処に着いた時彼は民

が武装して丘の頂上に立ち彼等の命を守る為には戦おうとして居るのを発見しました。アマリカヤは彼の軍に攻撃する事を許さず一夜、野営するように命令しました。暗くなつてから彼は他のレーマン人の司令官に使者を遣わせてアマリカヤに逢いに来るように頼みました。

この司令官はリホントイと云う名でした。彼はアマリカヤを信ぜず来ようとしませんでした。アマリカヤは三度人を遣わしましたが彼はそれでもまだ来ようとしませんでした。

そこでアマリカヤは自分の天幕を出てリホントイの居る岡の途中迄登つてリホントイに護衛兵を伴つて其処迄来るように頼みました。処今度はリホントイは来しました。

アマリカヤは双方の軍隊の司令官となろうと云う悪いたくらみを持ちました。彼はリホントイに両軍は合併する事が出来る。そして自分はその為喜んでリホントイを助けるであらうと云ひました。リホントイは、その総司令官となりアマリカヤは副司令官となろうと申出ました。

リホントイはこの計画の内に如

何なる悪意も認めずこれに同意しました。アマリカヤはリホントイに真夜中に彼の軍勢を率いて降りて来てアマリカヤの率いる護衛兵を取り囲むように告げリホントイはその通りしました。翌朝護衛兵達はわなにかつた事に気がつき殺される事を恐れてアマリカヤに他のレーマン軍と合併して戦争を避けるように頼みました。アマリカヤはこれに同意しました。これも又彼の陰謀の助けとなりました。

両軍が合併した時リホントイは連合軍総司令官となりアマリカヤは副司令官になりました。総司令官が死んだ時副司令官がその後を継ぐのがレーマン人の習慣でありました。アマリカヤはこの事を知つていましたので一人の僕をだまして味方にしてリホントイに少しづつ毒を飲ませたのでリホントイは病氣になりやがて死にました。

そこで軍隊はアマリカヤを彼等の司令官として宣言しました。アマリカヤは軍隊を引率してレーマン王に逢う為戻つて来ました。彼は又もや王を殺して自分が支配者となろうとたくらみました。

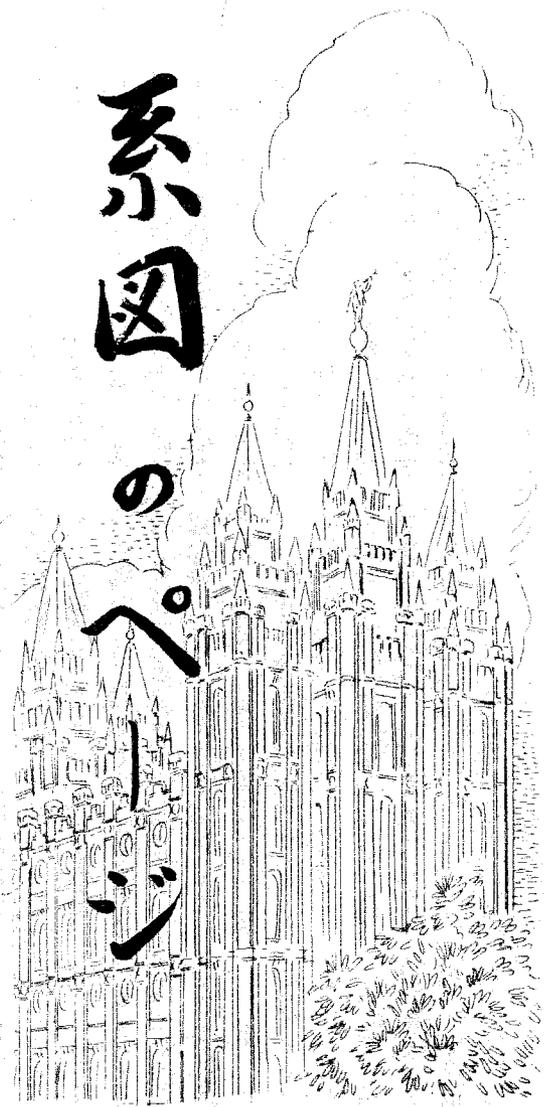
王が彼等を迎えに出て来ました。時、アマリカヤは或兵士達を王の前に進ませました。彼等は王の前にひざまずきましたので王は平和の証拠としてその手を彼等の頭に差延べ立上るや否や王を刺殺して彼等は立上るや否や王を刺殺してしまいました。王の僕等は彼等の主人が死んだのを見て自分等も殺されるのではなからうかと恐れ逃げました。アマリカヤは彼等が王を殺したのだと罪を着せて彼の部下を追跡させ捕えて殺させてしまおうとしました。けれども彼等は逃走してセラヘムラの地に至り

ニーファイ人と一緒にになりました。アマリカヤとその軍隊はその日に町の外に野営しましたが翌日町に進入して占領してしまいました。

悪いアマリカヤは后(きさき)に使者を送つて王の殺された事を知らせました。彼女は其の犯罪の証人を連れて来るように頼みました。アマリカヤは真犯人である自分の部下を伴つて行き後に王はもう逃走してしまつた王の僕によつて殺されたのだと告げました。

時が経つにつれアマリカヤは后を愛し始めそして或日彼と結婚するやうに頼みました。后はこれを受け入れ彼はレーマン人の王となりました。

前



系図のペリジ

東京中央支部報告

私達東京中央支部の会員は伝道本部に近いと云う位置的關係に於て非常にめぐまれて居り、系図の場合にも早くから重要性を伝えられ、昨年三月にいち早く委員会が組織されました。以来、伝道本部系図委員会長の渡部兄弟、囑囑されたワルゼン姉妹の御指導に依り系図のレッスンが日曜学校に組み込まれ支部長会、日曜学校管理委員会との協力に依り今日まで進歩してまいりました。そして、かつて

仙台支部で実際に系図調査を経験された阿部姉妹(現在横浜支部)を会長会に迎え、力強い出発の原動力として働いていただいた事は当支部の非常に幸とする所でした。支部定例会集は毎月一回平均十六、七名の出席をもち、記録の記入方法、重要性について、又実際に調査された古兄弟姉妹の体験談等を発表してまいりました。系図委員会主催に依る建築資金獲得の為「建てよう会」等も利用し、十

一月には「神殿小展」と題する展示会を行いました。その結果支部内には系図を重要視する空気が非常に高まっております。今年早々系図七枚、家族の記録十二枚を系図協会に送りましたし、なお多数の記録が出来つつあります。これからは、ホームテイチング、ワークナイトを強力にし、現在開設されている相談所を進歩発展させ、少しでも兄弟姉妹の資料作成に協力したいと思っております。

現在の支部系図委員は次のとおりです。
会 長 山 田 義 郎

先月号に記載の通り先程、本伝道部内各支部系図委員会西平期報告書及び東中央地方部東京、横浜各支部より提出の系図(一九)家族の記録(六七)計八十六枚のシートを伝道本部系図委員会を通しジョセフ・フィールディング・ス

親愛なる渡部正雄兄弟
スミス会長は過去三ヶ月間オーストラリア
ニユージールランド伝道部に滞在して居ります。
私たちは来週末に彼が帰ることを期待して居ります。私は彼が貴方から送って来た北部極東伝道部内の系図活動の報告を読んだ時大変喜ぶであろうことを確信します。
此の素晴らしい業績に対し心から感謝と称讃の意を表し度いと思ひます。
系図協会主事
L・ガレット・マイヤー

副会長 丸山周兵
副会長 和田定雄
書記 佐久間 都
.....

マイヤー長老の返信
ミス系図協会長宛送付しました宛
二月十二日附系図協会主事L・ガ
レット・マイヤー長老から次の如
き回答がありましたから皆様と共
に喜び将来の励みに供し度いと思
います。

北部極東伝道部
系図委員会会長
渡部正雄 殿

ソルト・レーク神殿 (二)
ウイルフオード・ウツドラフ大管長

我々は 我々が汝の最も栄えある名に建てた、この四十年間望み勞し祈りて来た此の日を見ることを許し給ひし汝を讀める心に充たされ、喜びと感謝の念と感嘆の声を以て汝の面前に来たれり。一年前に我々は神と仔羊へのホザナの歡聲を以て笠石を置きたり。而して今日我々はこの建物をそのすべてに包含するものと共に、それが汝の眼に撃くあるよう、それが祈りと讚美と礼拝との家であるよう、又汝の栄光が其の上に在るよう、汝の聖なる存在が常に其の内に在るよう、其れが汝の愛する独り子我等の教主の住民であるよう、汝の面前に立つ天使が神聖なる使者として、我々への汝の希望と意思をたずさへて其処を訪れるよう、そのすべての部分が大きいなる人類の統治者イヌラエルの神汝に聖なるものであるように認め捧げられるよう、汝に獻堂する。而して我々は此の汝の

とを認識させられるよう汝に祈り奉る。

家のしきいをまたぎ入るすべての人が汝の能力を感ずるよう、かくて汝がそれを聖めたるを、又それが汝の家、汝の聖なる場所なること

「デヴィス郡サンセット通信」
教会に改宗したジョセフ・サダラ

ニシモト兄弟が...
...先祖一千名を探求

し系図の仕事をするなら、神殿の儀式をどこにすべき百万の姓名を与えられるであらうと約束された。彼は一九五一年に教会に加入し合衆国陸軍に参加する少し

以前に長老に聖任された、一重曹であるニシモト兄弟は現在既に日本に於て千名以上の親類の姓名を

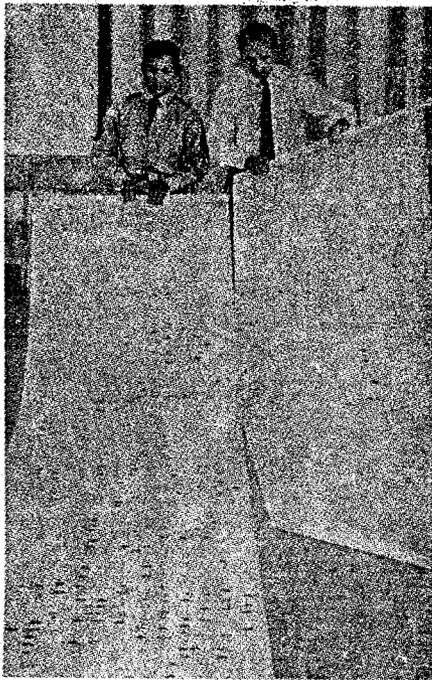
我々は汝がこの建物の礎石から金石に至る迄すべてを、其ののちに置かれたる像及び其の外部を飾る頂華、其他の裝飾と共に受け入れられるよう祈り奉る。

天父よ

我々は汝がこの建物の礎石から金石に至る迄すべてを、其ののちに置かれたる像及び其の外部を飾る頂華、其他の裝飾と共に受け入れられるよう祈り奉る。

我々は汝がこの建物の礎石から金石に至る迄すべてを、其ののちに置かれたる像及び其の外部を飾る頂華、其他の裝飾と共に受け入れられるよう祈り奉る。

集め又同様に多くの写真を集めた。彼は以前にユタ州デヴィス郡サンセットの居住者でありンゲンウ、ニシモト及びその妻マサエの



壁、隔壁、床、天井、屋根、切張り、昇降機、階段及び欄干、はめわく、扉、窓及び其他の開き口、又照明、暖房に関連するすべての設備及び衛生施設、ポイラー、エンジン、直流発電機、連結管及び針金、ランプ、燃焼器及びすべての器材、道具又此の家で執行される聖なる儀式に関連する或は使用する地点に駐屯させられた。その時彼はわすかしが系図の仕事をしたかった。彼は大阪に住む伯父松田マサミの住所を得てから、家系の

される物、幕及び祭壇、浸礼盤及びそれが載せてある牛及びすべてこれに含まれる浴室、洗面及び水槽を持ちこたうに祝福し給わんことを祈り奉る。又同様に記録がその中に保存される金庫、地下室が其の記録と共に又すべての書物、地図教材等が図書館と共に祝福されるように。

いる。一つの表は約二十五呎の長さで他の一つは十一呎である。ニシモト兄弟は、複写用レンズを用いて親戚の写真を複写し、小さな写真にして表の上に張りつけている。彼は彼が蒐集した姓名の約七十五パーセントの写真を確保したのです。

(写真説明)

ジョセフ・サダラ・ニシモトがその先祖の姓名及び写真を含む二十五呎及び十一呎の長さの表をユタ州デヴィス郡サンセット・ワード部の、ウイリヤム・ハルヴァー・ベイリー監督と共に示しているところ。

ニシモト兄弟は、その系図を確保した人々の殆んど写真を以て二つの大きな系図の表を作成して

我々は又同様に汝に受け入れらるるよう汝の前に、主要な建物でない附屬建築物及び附屬品をも提供し、この神聖及びその別館に属する又その内に発見されるすべての器具、座席、クッション、カーテン、掛け物、鍵及び留め具及び他の附屬品を塗装、しっくり塗り、粉飾、青銅色着け、あらゆる種類の立派な木及び鉄細工、ししゅう、縫い取り、絵画、肖像、彫刻、及び天蓋と共に祝福し給わんことを祈り奉る。又この建物とその内部に包含されるものの構成されている資材すなわち岩石、石灰しっくり、石こう、材木、木摺、各種木材、金、銀、青銅及び鉄、其他すべての材料、絹、らしや、及び綿布、皮革、毛皮、ガラス、陶器及び寶石等すべて及び此処にある他のすべての物を汝が受入れ、認め祝福し給うようへりくだって捧げ奉る。

我等の

天父よ、我々は汝の前に汝の僕たちや、

はしためたたちの結び固めの祝福の為に備えた祭壇を捧げ奉る。我々はこれを主イエス・キリストの御名により、汝の最も聖き名に献納し、此処に来るすべての人が聖靈

がその上に在ることを感じ、彼等が結ぶ誓約の神聖なるを自覚するよう此の祭壇を認め給わんことを汝に願ひ奉る。又我々は汝となす誓約及び相互に交わす契約が汝の聖靈によって命ぜられたものであり我々によって神聖に保たれ、汝に受け入れられるものであるよう、而してすべての宣言された祝福が此の祭壇に来たるすべての汝の聖徒たちによって義人の復活の朝に自覚されるように祈り奉る。

おお主よ、我々は汝が此の地域を、これ等の建物の立っている一かたまりの土地を周囲の障壁及び垣、歩道、小路、裝飾された花壇と共に祝福し認め給わんことを、又其の土壌に繁茂する樹木、植物、花卉及び灌木が特別に美しく咲きかおり芳香を放ち、この地が聖き祈りと、靈感された思いの爲のいこいと平和の場所たるべく汝のみたまがその真中に宿り給わんことを祈り奉る。

我々は

又汝に乞ひ奉る。此

の建物を水害又は火災よりの破壊より守り給わんことを又稲妻、落雷、たい風、大火、地震等の天災地変より守り給わんことを。

天父よ、此の建物内で働らくすべての人に祝福を与え給え。

この建物内で管理すべく任命される人を常に憶え、聖き者の英智と、召しの精神と、神権の能力と識別の賜とを以て豊かに彼等を富ましめ給え。

彼等の召しに従い、バプテスマ、按手礼、洗ひ、濯油、結び固め、エンダウメント及び此の内で執行される儀式すべてが聖なるものとして我等が教主なる神女に受け入れらるるよう、その儀式の執行に彼等と協力し、彼等を援助する者を祝福し給え。

又神殿の記録が遺漏や誤謬なく完全に保存され汝に受け入れらるるものとなるよう記録係及び写字生等を祝福し給え。

又この家の完成に義務を負いたる技師、番人、設備、其他の人々が汝の栄光への純潔なる心を以てその責任を遂行するよう祝福し給え。

(未完)

主の誠命を守らん

横浜 渡部 正雄

人類始まって以来の大事業が

聖なる神の尊い御業が

天地を結ぶ神の殿で

聖徒の手により執行されている

末日のれい明は訪れた

モロナイ天使を遣わして

固めしマラキの予言の声

成就されたる一八三六年四月三日

エライジャは訪れぬカートランド神殿

末日の神権は与えられた

父の心は子に、子の心は父に

主の贖いに浴せずして

家系調 四十年

二月八日附読売新聞に左記の如き記事が載つたのでその一部を転載し、お互の系図探求の参考に供すると共に日本に於ても教会外にも適くエライジヤの働きが見受けられ、これ等教会外よりの援助が期待されると共に此の方面を通じての伝道の急進的發展が予見され又それが私たちに課せられた任務であることを自覚し系図探求と同時に親類に或は系図探求愛好家の間に伝道するように心がけたいと思ひます。

四百人の親類捜す

桜井さん

三巻の「由来」も完成

桜井さんは神奈川県高座郡海老名町今泉に生れ綾瀬平塚などの小学校校長を長くつとめた教育者、桜井家の祖先は代々神官でなかには医者もあるが、今日も経蔵院と呼ばれ有名な不動明王がまつられてゐる。桜井さんは医者をしていた父の三男で弟が生れた。四才のころ祖父ふきさん(八十四で五十三

年前死去)から自作の手守りたといつしよに桜井家の祖先の話をしばしば聞かされたのがわが家の歴史に興味をもつ動機となつた。長い教員生活の間機会あることに親類知人の墓や、神社仏閣、図書館旧家、古戦場などを歩いて祖先の歴史を四十年間調べ、このほど桜井家の歴史三巻(編生桜、みやま桜、昔の桜)に書きあげ生家の歴史に由来を刻んだ、二メートルの石碑を建てた。

この調査の結果県下をはじめ静岡、埼玉、長野などに現存する六十余家族、延べ四百余人が親類でさかのほれば千余に及ぶ者が祖先を同じくしており日本民族は兄弟姉妹ということが実証された。

そこで桜井さんは祖先の記録を三冊にまとめこのほど生家の守護神として知られた不動明王のお堂が出来たのを機会に家系の由緒を刻んだ石碑を建て、生家の当主、桜井登喜さん(五一)ははじめ六十家族を招いて供養を行い、祖先の名に恥じぬようお互いに国家社会のために働くことを誓ひあつた。碑の裏面には次兄桜井秀翁(七五)の近詠

「幾百とせみなもときよくまゝり来し代々のみおやのいさおしぞおもう」の一首が刻まれている。

以上が桜井氏に関する記事であるが同氏は仏教信者であるので切角の探求の成果も単に供養と云う仏教の行事に終つてゐるがこれがこの末日に回復された真の福音によって探求された四百人の親類の一人一人が聖なる儀式により救われることを知つたら如何に大きな喜びとなることであらうか?

又祖先の名に恥じぬように言ひあつたと云うことは日本人の先祖崇拜の美德でこれがひいては子孫に善い名を残す為の誠めとなり、この家系を尊重する精神は左記の如きヒラマンがその息子ニーフアイ及びリーハイに語つた言葉と相通するものがあり、ここにも日本人が此の回復された福音を受け入れ易い養分が見られるのである。

「この二人はその父ヒラマンが自分らに話した言葉を思い出し、たが、父は二人に、「私の子らよ。私はお前たちが忘れず神の命令を守りこれを民に伝えることを望む。私はエルサレムの地から来た私たちの先祖の名をお

逝りにし先祖は解き放たれ我等血の流れは世々に結ばれる末日の機会は来りぬ

霊のひとやに待ちあぐむ先祖をたずねて我行かむ戸籍過去帳 碑や史蹟系図の探求休みなくアダムとイヴに遡る迄

いざ同胞よ 手をととりて共に進まん聖業に如何なる苦難に逢おうとも我等守らん主の誠命

日の栄えに連らなる日迄

前らに与えた。このわけはお前らが自分の名前を思うたびに先祖のことも思わせ、先祖を思うたびに先祖の行いもまた思わせ、先祖の行いを思うたびにその行いの善かつたことが言伝えにも記録にもこのつてゐるのを知ら

せるためである。それであるから、わが子らよ、私はお前たちに先祖について言ひ伝えられ書き伝えられたと同じ事がお前たちにいつても言ひ伝えられ書き伝えられるように善い事をしてもらい度い(ドラムン五・五七七

ニユース欄

モルモン・バライテイシヨウ

二月九日、十日の両日、三宮にて西中央地方部の宣教師報告大会が開かれた。地方部の試みとして九日の午後六時四十分より、神戸新聞会館七階ホールにて、「モルモン・バライテイシヨウ」を行っ

た。会場につめかけた一般の観客並びに長老たちや大阪、西宮、三宮支部の会員はなごやかな雰囲気の中で、阿倍野支部の伊藤清兄弟によるピアノ、ノーマン地方部長とフオックス長老によるウエスタン、岡町支部の上野山研次郎兄弟による手品、地元の石田、前芝兄弟と山口、青木姉妹による四重唱ハワイ出身の五人の宣教師によるハワイの歌、特別出演として岡町支部の秋元彬江姉妹によるピアノ最後にスライドによるモルモンの活動を新後開長老の解説を通して楽しみ、成功裡にプログラムを終え、多大の影響を神戸の人々に与

えた。

(結婚式) 翌十日、午後四時から阿倍野支部の伊藤清兄弟と三宮支部の中島好子姉妹の結婚式が三宮支部の教会堂でアンドラス伝道部長の祝福によってとり行われた。両家の御家族一同並びに阿倍野、岡町、西宮、三宮等の会員も共に祝福を与える機会が得られ結婚の意義を新たなものに出ることが出来た。

(バスケット) その夜、神戸高校体育館で、長老たちによるバスケットの試合が行われ、会員たちと共に楽しいひとときを過ごした。(報告) この報告会の席上にて地方部長のノーマン長老が本部に真野長老が横浜に転勤することがきまり、地方部長にフロックス長老支部長にマン長老が任命された。この任命により先月二十五日から仙台勤務の南東、チェス長老の後

任として働いているクワ長老、スワ長老と共に四人で引続き神戸にて伝道することとなった。

(日曜学校) 二十二日の日曜日西宮支部と合同で日曜学校、聖餐式を行った。同じ証詞によって結ばれている喜びと共に、多くの教えを西宮支部の会員から受けた事

阿倍野の集会場移転

◎ スケートの会及び食べよう会
一月十五日、大阪の中心にあるスケートリンクに阿倍野支部のメンバーが集って来た。MIA主催のスケートの会である。

ベテラン山本雅男兄弟の指導の下に、一同大いに滑り、又見事にひっくりかえって楽しい氷上の時間を過ごした。

同夜、スケートでお腹をペコペコにした面々は宣教師宅に集った。大きな二つのなべにはおでん

(関東煮と云う) がつくづく煮えて、うまそうなおいが温かい雰囲気と共に部屋の隅々にまで充満して行った。

よく準備されたゲームに興じ、溢れるばかりの兄弟愛に、時の過ぎ行くのが惜しまれる日であった。

を大父並に西宮支部の会員に心から感謝します。

なお子供の日曜学校もこの日から伊藤好子姉妹の主任、川島美智子姉妹の書記という組織で十四名の子供たちと共に始まった。

(三宮 前芝康夫)

迎え、子供の日曜学校には八十九名の可愛い子供たちが集った。MIAの方でもダンスの活動が可能になるので今後の発展が期待される。

(阿倍野 筋田俊三・中筋)

写真左は第一回
集会記念撮影



地方部大会予告

東中央地方部

四日は午後六時より八時半まで「金」緑」の大ダンス・パーティーが千駄ヶ谷の国立競技場大会議場で行われる。今年はソーシヤル・ダンスのみに徹するようであり、アメリカ並の「金」緑」に始めておめにかかれるようである。MIA地方部指導者の中東兄弟がたまたまプロ級のダンス教師なので、指導よろしきを得た東京横浜の支部ダンス指導者たちのデモンストレーションはタンゴ・ワルツ等当日のみものである。

五日は池袋の豊島公会堂に於て九時より神権会、扶助協会は隣りの振興会館で同時に開かれる。神権会は東京四支部の新たに聖任された若き四長老の話しが期待される。

一般大会は十時半より開かれる。今年にはテーマはない。説教者は帰還宣教師の佐々木八重子姉妹、新後関義雄兄弟と地方部評議員の渡部正雄、佐藤龍猪両兄弟とアンド

ラス伝道部長と発表された。

証詞会は二時半から四時半まで、夜七時から八時まで振興会館の方でフアイヤー・サイドが開かれる。当日の出し物は米軍の兄弟、姉妹たちの受け持ちでなが飛び出すか、今大会の計画者、地方部長のヘンリー・高橋長老にも解からなことの専

西中央地方部

十一日は神戸市灘区王子町にある王子体育館に於て午後六時半よりMIA大会が行われる。第一部は七時半まで、各支部からのプログラム。その後はフオーク・ダンス、ソーシヤル・ダンス・パーティーになる。各支部の会員たちにとっては親睦の好機会である。

十二日は昨年と同様三の宮の農業会館に於て九時の神権会と扶助協会を始めとし、十時半には一般大会が開かれる。今年にはテーマはモーセ書一章三十九節の「見よ、これはわが業にして、わが栄光、すなわち、人に不死不滅と永遠の

生命を
もたら
すなり」

である。この大会に於て会員は伝道の義務が有るという事について特に強調される。

証詞会は一時半より二時半まで、四時半から五時半までは指導者会が開かれる。同時に系図委員会も開かれるが、伝道部の系図委員会会長の渡部正雄兄弟が特別出席され、系図調査の重要性について話される。

北海道地方部

一月二十四日札幌支部に於て地方部役員会がエリス長老の提案により開かれた。この会は地方部大会の計画会であり、今まで宣教師のみによって立案されていた大会を会員たちの手によってなすように集ったものである。この会を通じて各支部の役員たちは且つてない程その責任に自覚めたのは、地方部長の会員たちに対する信頼と愛とによるものであろう。

大会は十八日の午後二時から地方部のバプテスマが寒川にて行われる。司会及計画は旭川支部の

安田たく三兄弟である。午後六時半から八時半迄のMIA大会は札幌の松下泰洋兄弟の司会と決まり、小樽と旭川支部からコーラス、室蘭から演劇が発表され、全員ダンスを行って終るよう計画されている。

十九日は札幌の市民会館で、会員たちみずから選んだテーマ教義

札幌支部の近況

北の国札幌にも、もう春が訪れて来た。私たちが来日聖徒たちは、本心に希望に満ちた春を迎えました。札幌支部も月々発展し、昨年中でも六十一人の兄弟姉妹が誕生しました。今年になっても月に、五、六人の新しい会員が誕生し、毎日御霊を感じつつ幸福な日々を送っています。

三月七日、土曜日に米軍千歳キャンプの兄弟姉妹が、札幌支部を訪問し親善のパーティーを催しました。教会の近所の小学校でバスケットの試合をし、夜は夕食の交換と楽しい一日を過ごしました。MIAのレッスンにも出て来ました。千歳キャンプにも今ではほんの少しの会員しか残っておりませんが、

と聖約の第四章を中心として大会が行われる。

神権会、扶助協会は八時半から九時半までプログラム作製及び司会はテリー長老と岸上ひで姉妹である。一般大会は札幌の柳沢雄兄弟で十時より十一時半まで、証詞会は旭川の福原俊明兄弟、指導者会は札幌の藤田兄弟である。

彼らは本心に信仰強く、御霊に満たされた生活をしていきます。現在の札幌支部は日曜学校、MIAともに満員で一時も早く会堂を広くするか、又は新しい会堂を見つけてはなりません。そのため建築資金獲得のために、二十一日に食事バザーを開きます。そして多くの人々を教会へ導けるように会員一同努力しています。

柳井補助組織

柳井支部ではこの度各補助組織の役員に移動があり次の如く兄弟姉妹が任命されました。

◎ 日曜学校
管理会長 スラック長老

第一副会長 二上二夫
第二副会長 大畑こう一
書記 一山澄子
M.I.A.

会 長 林 定夫
第二副会長 岡本友江
第二副会長 中西孝子

書記 河内やす子
○ 子供日曜学校
主 任 佐伯伸子

書記 大畑こう一
○ 扶助協会
会 長 二上たみ子

第二副会長 家屋澄子
第二副会長 高野えみ子
書記 林 敏子

ダンス・パーティー

教会堂の改修資金獲得のため兄弟姉妹が協力して二月二十日午後六時三十分から大町ニュー・オリオンでダンス・パーティーを開催しました。
参加者は二百五十名。ツウバンドの為か盛会でありました。
ほんとに楽しく冬の宵を過ごしました。

収益は約二万円、なおパーティー

の開催に多くの犠牲と奉仕をして下さいました愛する兄弟姉妹に心より感謝しております。
役員新任
日曜学校
会 長 鈴木正治 M.I.A.

伝道本部だより (二月廿八日現在)

宣教師の異動

一、日曜学校監督。V. ガース・ノーマン長老は二月十日、伝道本部補助組織監督に任命されて伝道本部に在勤となった。
二、地方部長及び支部長。メーザ・テリー長老は二月九日北海道地方部長、K. ヘルト・ブルック長老は二月十日西中央地方部長に、またビーター・マーン長老は三宮支部長に、テリー・ポーター長老は札幌支部長にそれぞれ任命された。

三、宣教師新任地。ニューシン・テル長老、ローウル・ブラウン長老は京城中央へ、シャール・モリカワ姉妹とキヤロル・ブラウン姉妹は岡町支部へ、ケネス・マノ長老は横浜支部へ転任された。

四、宣教師解任。ステーション・B. エリス長老及びマリン・ヘグ姉妹並にジョアン・アイザック姉妹は任期満了して宣教師を解任され、いずれも帰米されたが、在任中の熱心な伝道に対しては各支部挙げて感謝している。

誕生と祝福

藤井道郎兄弟は一月十四日新潟県において高橋のふ子嬢と結婚された。(新潟支部)
田中あきひこ(一九五八年十一月十七日生)は去る一月二十五日田中健治兄弟によって祝福された。(東京中央支部)

神権授与

執事 武田 憲二	晋天間
祭司 日坂 謙	名古屋
執事 大橋 亘	岡町
執事 佐藤 泰生	東京中
教師 稲垣 高義	東京北
祭司 堀田 秀司	東京南
執事 伊藤 徳男	東京南
執事 岩間 毅	東京南
教師 加藤 弘	東京西
執事 中川 剛太郎	東京西
執事 大畑 広一	柳井

韓国で執事に聖任されたもの六名、教師に昇任されたもの六名、祭司に昇任されたもの三名及び長老の職に聖任されたもの一名がありました。

バプテスマ

譜久原 秀子	晋天間
成林 孝次	広島
大館 成子	広島
川田 輝雄	金沢
新垣 昌也	那覇
宮城 昌子	那覇
赤沢 昌進	新潟
安藤 繁子	新潟
中村 ひろ毅	東京中
大原 磯子	西宮
小泉 裕功	横濱
上前 鉄治	西宮
川口 高司	岡町
高岡 正幸	岡町
黒崎 まさ代	札幌
ます谷 清	札幌
佐々木 一義	札幌
柴々木 元繁	札幌
斉藤 元繁	札幌
荻野 正弘	横濱

この外韓国にて六名新たにバプテスマをうけました。



「詩」

光

南支部 佐野 雅

今川焼をやいているところから
少し遠いところに、
一人の乞食が立っている
朝九時の駅前通りである
あたたかい内に
たべなさいと
さしだす
紙フクロから尊い光が流れてる。
それをみてか
老人は
ニコニコ笑う
僕は
やいているお兄さん
それからさし出してくれる
お姉さんにありがどうといった。
そうだ、おじさん、うんと
暖いうちに食べるがいい。

「短歌」

こがらし

仙台 桂島 良子

こがらしにプライマリーの児等帰り行く
幸あれかしと今日も見おくる
ひたすらに聖徒の道を歩みゆく
夕べの祈りに今日もおわりて

今日も又御堂に集う日のありて
我はこの世に幸せと思ふ

レッスンを学びて御堂を 出し時
強き証のありて笑みつつ

寒き夜に承図たすねて我一人
亡き兄しのびつこよいもふけぬ

西支部俳句

(二月句)

ぼつりばつり顔出しているヒヤシンス 小池兄弟

雨に濡れ葉蔭に白き沈丁花 小室姉妹

霜どけに庭の石みなしづみをり 勝又兄弟

富士見ぬ日すつとつすきぬ春がすみ 〃

ハシ止めて小鳥の声を聞きにけり 〃

春近しブルーの生地を出して見る 勝又姉妹

霜どけの道にこぼれし梅の花 〃

妻と来し伊豆の浜辺のこぼれ梅 小室姉妹

飾棚たゞ白梅の活けてあり 〃

菜洗いの水じやぶじやぶと春近し 〃

込みを立てたいと願っている。

は築資金獲得の為に築委員長が田中健治兄弟が知恵をしぼり、様々な計画をねっているようである。

支部長の今井兄弟はプランチテイティングに力を入れ会員の信仰強化に努力している。

昨年はバプテスマの数が四十人あったが、今年は一二人が一人の会員の「伝道部長の勧めに従って一きよに二倍の会員数にもって行く予定である。そうすれば立派なワールド部の会費源となリ「ソンのステーク」のきつ第一の礎ともなるのである。中央支部の発展の爲どうかお祈りして下さい。

MINGLE AND MAKE FRIENDS

By KARL ROFF
TOKYO, JAPAN.—“We need at least 100 missionaries in Korea and 500 in this Mission,” contends Paul C. Andrus, president of the Northern Far East Mission, whose Tokyo headquarters records a 1500 per cent increase in those baptized throughout the Mission in the last two years.

At present 113 missionaries labor in this part of the Far East, including 12 in Korea and eight on Okinawa.

In Korea, where mission work first started two years ago, the need for more missionaries is especially great, says President Andrus, pointing out that over 250 converts have been baptized in Korea this year—about 13 per missionary.

A reason for this success, he believes, is the willingness of missionaries to mingle with the people. This gives to religion a warm, personal relationship seldom experienced by the impoverished, war-weary Koreans, 20 per cent of whom had been Christians before World War II.

A curious feature of Church work in Korea is that nine out of ten converts are men. “However,” states Elder Andrus, “in Japan the opposite used to be true. We converted many more women—especially older women—than we did men.”

“Now,” he adds, “we’ve changed our tactics and are receiving more men into the fold.”

Missionaries in Tokyo now select possible converts from among the city’s numerous pedestrians, and invite them to learn about the Church at later meetings.

Prior to this, Elder Andrus explained, missionaries lacked the advantage of selecting



A SINGING LESSON—Sumi Uchida demonstrates how to sing a Christmas carol at a MIA meeting in the Tokyo Central Branch. Demonstration was in Japanese.

their listeners. They called at Japanese homes and spoke to whoever answered the door, usually a woman, and very often the obasan, or grandmother.

“Now, missionaries can catch the man of the house on his way to work and his sons on their way to school,” he said.

Brief street-corner meetings are another example of new tactics employed by missionaries in Japan.

Elder Robert S. Davis, of Circleville, Utah, one of six missionaries living at the Mission’s Tokyo Central Branch, is particularly fond of this method.

“We like to hold our meetings near railway stations,” he says, “where crowds are thickest. One of us speaks for awhile in English. Then we

give a Japanese translation. This always attracts attention and makes people listen more carefully.”

So many pedestrians have been attracted in this way, said Elder Davis, that police have objected to the meetings as possible traffic hazards.

Missionaries in central Tokyo have baptized 40 converts this year, five more than last year’s total. Branch membership exceeds 150, although the meeting hall only seats about 60 people.

MIA meetings usually draw an overflow crowd of from 50 to 80 young people, according to Branch President, Kazuo Imai.

Four branches of the Church are located in Tokyo. Tokyo Central, near Mission headquarters, is the largest branch in the entire Mission.



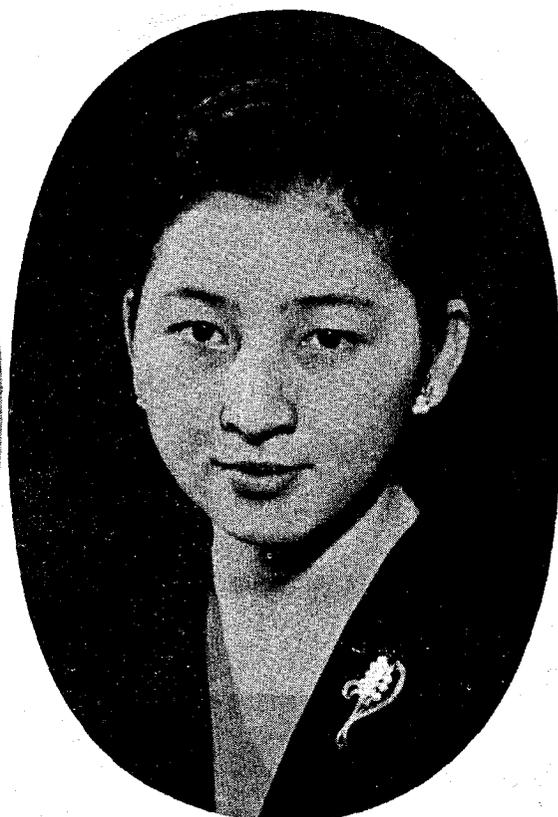
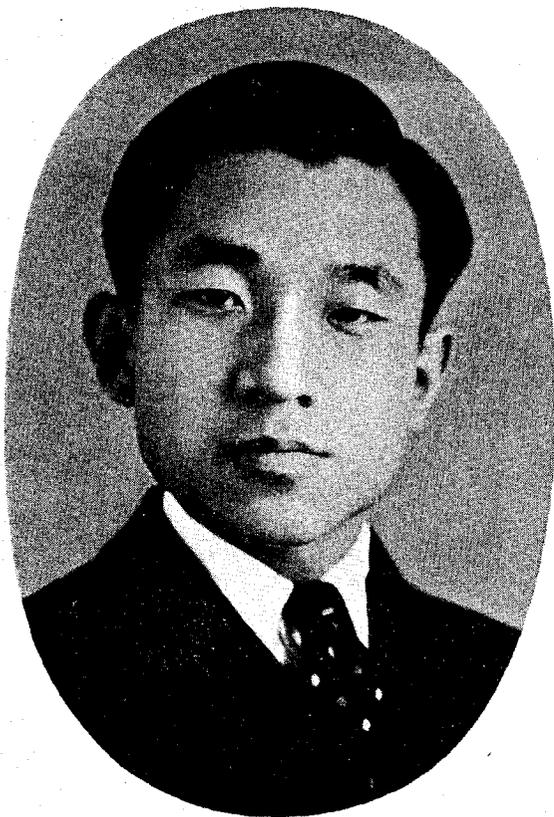
A LATE ARRIVAL—Slippers are issued to each guest at the Mutual Improvement Assn. meetings such as this one held in Tokyo. All who attend take their shoes off outside, but this latecomer found the slipper supply exhausted, went in in stocking feet.



MIA STUDY GROUP—Two classes are studying here in the main meeting hall of the Central Tokyo Branch. In an adjoining smaller side room two other classes are also in session.



ROUND DANCING—Typical of “round” dances held in the Central Branch in Tokyo is the MIA dancing program. On extreme left is Hiroko Nasato, who plays the piano for many of the Branch functions in Tokyo.



皇太子さまと正田美智子さんの結婚式は四月十日に皇居内で行われる。すなわち、結婚の儀、朝見の儀は四月十日、宮中祝宴の儀は四月十三、十四、十五日の三日間であるが、「われらの皇太子」の前途を祝福して、四月十日は国慶日に制定された。

(写真は産業経済新聞社の提供に依る)